



個性を活かして全国で活躍！

～JETプログラム参加者を活用した取り組み～

昨今の自治体の業務においては、学校教育現場における語学学習はもとより、地域の魅力の発信や各分野の多言語化など、国際化に関する業務は重要な課題であると考えます。

今回は、課題の解決に向けて JET プログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）の紹介を行うとともに、全国で活躍する JET プログラム参加者の、任用先自治体の強みや特色を活かしたさまざまな活動を取り上げていきます。

地域の国際化や課題の解決に向けて、JET プログラムを活用してみませんか。

〔(一財)自治体国際化協会 JET プログラム事業部〕

1

JET プログラムに係る概要

(一財)自治体国際化協会 JET プログラム事業部

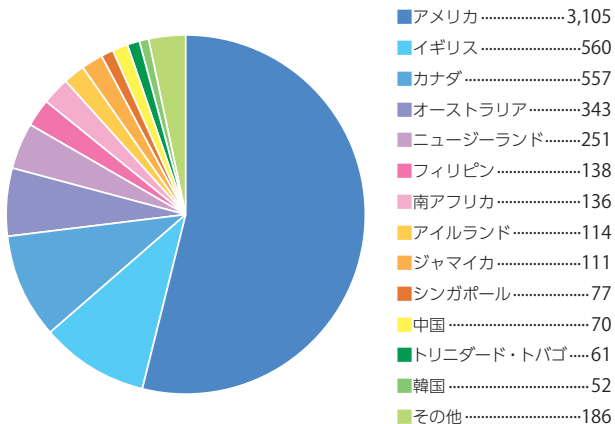
JET プログラムとは

JET プログラム (The Japan Exchange and Teaching Programme：語学指導等を行う外国青年招致事業) は、外国語教育の充実、諸外国との相互理解の推進、地域の国際化を目的として、地方自治体等が在外公館における募集・選考を経た外国青年を任用する制度である。2019年度現在 57 か国、5,761 人が参加しており、1987 年の創設以来、75 か国から 7 万人を超える参加者を招致している。

北米	約 45,270 人	アジア	約 2,570 人
アメリカ	約 35,840	中国	約 1,410
カナダ	約 9,440	韓国	約 470
		シンガポール	約 410
ヨーロッパ	約 13,570 人	アフリカ	約 690 人
イギリス	約 11,120	南アフリカ	約 690
アイルランド	約 1,340	中南米	約 750 人
ドイツ	約 310	ジャマイカ	約 380
フランス	約 300	ブラジル	約 130
オセアニア	約 7,870 人	トリニダード・トバゴ	約 170
オーストラリア	約 4,560		
ニュージーランド	約 3,300		

(2019年7月時点)

地域別・主な国別の参加者数 (累計)



主な国別の JET 参加者数 (2019 年 7 月時点)

JET プログラムの仕組み

JET プログラムは、総務省、外務省、文部科学省、クレアが協力・連携することにより、運営を行っている。



総務省

- 総合調整
- 自治体への財政措置



外務省

- 在外公館における募集・選考
- 出発前オリエンテーション
- 帰国後の JET 経験者への支援



文部科学省

- ALT (外国語指導助手) にかかる学校教育研修
- 来日直後オリエンテーションにおける研修、指導・助言

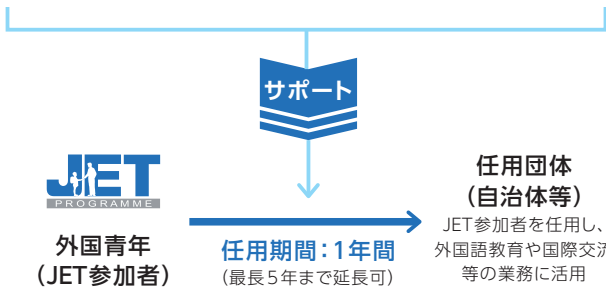


- 自治体の要望に応じた JET 参加者の配置
- 来日直後オリエンテーション、各種研修の実施
- 任用団体・JET 参加者のサポート
- JET 経験者への支援



取りまとめ団体
都道府県
政令指定都市

- 管内任用団体の JET プログラム活用に関する取りまとめ、助言、JET 参加者へのサポート
- 都道府県別オリエンテーションの開催
- ALT 指導力等向上研修の企画・実施
- 任用団体セミナー等の開催



JET プログラム参加者の職種

● ALT (外国語指導助手)

JET プログラム参加者の約 90% が ALT であり、現在、全国で約 5,000 人の ALT が活躍している。主に学校または教育委員会に配属され、日本人外国語担当教員の助手として外国語授業に携わるとともに、教育教材の準備や英語研究会のような課外活動なども行う。新学習指導要領が 2017 年に公示され、2020 年度からは小学校における外国語教育も拡充されて、外国語指導体制の充実が求められる中、今後も彼らの活躍の場が増えることが予想される。



授業を行う埼玉県教育委員会の ALT

● CIR (国際交流員)

外国人観光客誘致 (インバウンド) や地元産品の輸出などの国際経済交流への支援が強化され、また外国人住民の増加により多文化共生に係る取り組みの必要性が高まっている。こうした状況の下、多様な文化的背景と高い日本語能力を持つ CIR は、翻訳・通訳への対応、語学

講座や国際交流事業の実施、自治体の魅力の発掘や海外に向けた情報発信などさまざまな面で活躍が期待されており、全国の自治体で 500 人



災害情報の翻訳を行う千葉県鴨川市の CIR

に応じた活動を行っている。

● SEA (スポーツ国際交流員)

SEA は、母国において国内オリンピック委員会 (NOC)、政府機関等が特定種目の指導者の分野で特に優秀と認められる者として推薦する青年である。主に自治体において、特定種目のトレーニング方法やスポーツ関連事業の立案の補助などを通じて、国際交流活動を行っている。



ホッケー教室を行う京都府京丹波町の SEA

経費と財政措置

JET プログラム参加者一人につき、報酬や社会保険料 (雇用主負担分)、傷害保険負担金などとして合計 415 万円 (1 年目) ~ 485 万円 (5 年目) のほか、活動に必要な旅費等を予算計上する必要があるが、市町村に対しては、JET プログラム参加者数に応じ、一人当たり 481.6 万円の普通交付税が加算される措置 (密度補正) 等の財政措置が講じられている。

JETAA (元 JET 参加者の会)

元 JET 参加者 (JET 経験者) が自主的に設立している JETAA (JET Alumni Association) は、世界 53 の支部で約 2 万 4,000 人が参加し、日本文化の紹介活動や自治体代表団の海外派遣の現地における側面支援等を行っている。



JETAA ドイツでの会議の様子

受入れ自治体や JET 参加者へのサポートについて

JET 参加者と、任用する自治体が良好な関係を築き、円滑に業務を行えるよう、都道府県や政令指定都市に設置されている Prefectural Advisor (PA: 取りまとめ団

体アドバイザー) とクリア職員により業務や生活に関するさまざまな情報提供や相談対応、研修会の実施を行っている。

受入れ自治体へのサポート体制



●任用に関わるお悩み解決をサポート

外国人である JET 参加者を自治体の職員として任用するにあたって生ずる疑問等に対応する「クリア・インフォメーションデスク」(電話・メール) を設けている。

●より効果的な JET プログラムの活用につながる情報提供 [新規 JET 担当者セミナー]

新たに JET 参加者を任用することになった自治体や異動により担当することになった自治体の担当者を対象に、受入れ事務・手続き等に関するセミナーを開催している。

[PA 研修会]

PA を対象に研修会を実施し、管内の JET 参加者や任用する自治体に有益な情報等を提供している。

[JET プログラム都道府県別サポート研修会講師派遣事業]

都道府県が管内の任用団体の担当者等に対する独自の研修会を開催する際に、クリア職員を派遣している。

●任用団体マニュアルの提供

JET 参加者を任用する自治体向けに、毎年「任用団体マニュアル」を作成して提供している。マニュアルでは、受入れ事務や任用規則、税、保険に関する情報のほか、緊急時の対応など、JET 参加者の任用にあたり、必要な情報を提供している。



SEA の中間研修の様子

JET 参加者へのサポート体制



●英語教授法習得支援

JET 参加者の指導教授能力向上のため、英語教授法 (TEFL、TESOL) の習得に係る経費の一部を助成している。

●翻訳・通訳講座の提供

翻訳・通訳業務に必要とする専門的な知識や技法を、6 か月間の通信講座と5日間の集合研修を通じて学習する。

●日本語講座の提供 (初級・中級・上級コース)

職場でのコミュニケーションの向上、日本や地域理解の促進のため、基本的な日本語学習の機会を受講者のレベルに応じてオンライン講座 (e ラーニング) により提供する。

●JET 傷害保険

JET 参加者の福利厚生のために割安な保険を用意し、けがなど万が一の場合に備え、医療費等の自己負担を軽減する。

●カウンセリング助成等 (メンタルサポート)

JET 参加者が抱えるメンタル面の悩みなどに対し、医療機関やカウンセリング専門機関などにおいて健康保険適用対象外でカウンセリングを受けた場合の経費の一部を助成している。

また、メール、スカイプ、フリーダイヤルによる、メンタルヘルスケア相談窓口も設けている。



CIR 意見交換会の様子

3

JET プログラム参加者の任用の流れ

(一財)自治体国際化協会 JET プログラム事業部

2020 年度任用の当初予定スケジュール

任用団体が配置の際の要望として指定できる項目には、国籍や自動車運転免許の有無など 11 項目があり、「小学校勤務の有無」も含まれている。要望の際には優先度の高いものから挙げてもらい、クリアが全任用団体間での調整をしながら、できるだけ多くの要望を満たすようにあっせんする。

2020 年の新規招致者配置要望調査については、各都道府県・政令指定都市の国際交流担当部局へ 2019 年 8・9 月に通知しており、JET プログラムの導入および配置人数の増加を考えている任用団体は、取りまとめ団体を通じて配置を要望いただいている。

	4 月来日	夏来日	
		英語圏	少数招致国
要望調査通知 (クリア→取りまとめ団体)	2019 年 8 月	2019 年 9 月	2019 年 9 月
要望締切 (取りまとめ団体→クリア)	2019 年 10 月	2020 年 1 月	2019 年 12 月
あっせん通知 (クリア→取りまとめ団体)	2020 年 2 月	2020 年 4 月	2020 年 5 月
JET 参加者来日時期	2020 年 4 月	2020 年 9 月	

2020 年度における JET 任用までの当初予定スケジュール

※新型コロナウイルス感染症の拡大による渡航制限等により、あっせん通知および JET 参加者来日のスケジュールに影響が出ている。

※例年夏来日は、7、8 月に実施しているが、2020 年度は東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される予定であったため、9 月の来日予定となった。



Q JET を招致するにあたって、経費はどのくらい必要ですか？

A JET 参加者 1 人あたりの主な経費 (2020 年度見込み)

- ⇒報酬：3,360 千円 (1 年目) ~ 3,960 千円 (4 年目・5 年目)
 - ⇒社会保険料：雇用主負担分
 - ⇒JET 傷害保険負担金：約 28 千円
 - ⇒旅費：オリエンテーション研修参加、自治体個別の業務、任用を終了した参加者の帰国費用
 - ⇒JET プログラム会費：92 千円
 - ⇒渡航負担金 (1 年目の参加者)：約 160 千円
- <参考> JET プログラムを活用するための地方交付税措置あり。



Q JET 参加者の要望をするときどのような項目があるのでしょうか？

A 項目は 11 項目あります。その中で優先度の高い要望を 4 つまで挙げていただきます。

- ①性別 ②自動車免許 ③婚姻 ④地域区分 ⑤専攻第 1 ⑥専攻第 2 ⑦小学校勤務の有無 ⑧国籍
 - ⑨州 ⑩地域の経済団体と連携して主に経済分野の業務を行う参加者 (CIR のみ) ⑪ JET 経験者
- 自治体からの要望と新規 JET 参加者の事情・要望の双方をできるだけ満たすように配置します。

4

地域文化の発信に貢献する CIR

東京都大田区国際都市・多文化共生推進課 石渡 喜彬

大田区の多文化共生の取り組み

世界有数の国際空港である新東京国際空港(羽田空港)が立地する大田区には、2020年6月1日現在127の国と地域から2万5,286人の外国人が居住しており、その数は年々増加を続けている。

こうしたなか、区は、基本構想で掲げる区の将来像「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市おおた」の実現に向け、2017年3月12日の大田区制70周年記念式典のなかで「国際都市おおた宣言」を行い、観光振興、産業振興とともに多文化共生を重要な施策の柱の1つに位置付けている。またこれに先立ち、2015年から多文化共生施策の一層の充実を図るため東京23区で初めて国際交流員(CIR)を採用しており、現在は3代目となるイギリス人のベサニー・カミングスさんが当課に配属されている。

ベサニーさんは当課の業務に携わる傍ら、週に2日ほど区の国際交流協会である、一般財団法人国際都市おおた協会(GOCA)にも出張し、区の多文化共生事業に幅広く関わってもらっている。具体的には、区の姉妹都市である米国マサチューセッツ州セーラム市からの市民訪問団受入れ時の通訳、区立小中学校での出前授業、地域の特別出張所での外国人を含めた防災訓練への協力、区職員を対象とした国際理解研修や英語での窓口対応力



区内の小中学校で国際理解授業を行う

向上を目的とした研修での講師など、業務は多岐にわたる。これらに加え、近年では地域の文化発信事業についても他部局から協力依頼が来るようになっており、活躍のフィールドが広がっている。

勝海舟の軌跡を英語で発信

勝海舟は西郷隆盛とともに江戸無血開城を成し遂げたことで知られる旧幕臣である。海舟は、明治時代後期に区内にある洗足池の畔に別荘「洗足軒」を構え、生前、ここを自身の埋葬の地と決め、今も洗足池公園内の墓所に眠っている。区では海舟の功績や、区との縁を紹介するとともに、海舟の想いを伝えるため、「洗足軒」ゆかり



地域のイベントで参加者と触れ合うベサニーさん



2019年9月に開館した全国初の勝海舟記念館

の地に建てられた旧・清明文庫（国登録有形文化財）を改修し、2019年9月に全国初の「勝海舟記念館」として開館した。

同館では、外国人旅行者や在住外国人の方にも気軽に展示を理解してもらえよう、外国人向けに多言語リーフレットや音声ガイドを配備したり、展示に英訳をつけており、この翻訳をベサニーさんが手掛けた。

翻訳依頼は施設の開館1か月前という、時間がない中での急ピッチの作業となったが、「形に残るものである以上妥協はできない」と、専門書や英語の文献にも細かく目を通し、翻訳に必要な知識を習得のうえ、外国人が見ても違和感のない翻訳を目指して前向きに取り組んだ。「翻訳し慣れていた行政用語とは異なり、歴史の独特な言い回しを英訳することは難しかった。」と本人は語るが、英訳を納品した時には当課の誰よりも海舟について詳しくなっていた。



手がけた翻訳は、現場での確認も欠かさない

英語で伝える地域の音色

ベサニーさんは通訳面でも地域の文化発信に貢献してくれている。

大田区は例年5月に、同じく洗足池で「洗足池 春宵の響」を開催している。これは1995年、洗足池西岸に「池月橋」が竣工したことを記念し、笛の名手で人間国宝の寶山左衛門（たからさんざえもん）氏をお迎えして始まった野外での邦楽コンサートであり、2019年には25回目の開催を迎えた。夜間に開催される本コンサートは、ライトアップされた洗足池を舞台に、和楽器等による伝統芸能の音色を楽しむことができ、地域で愛され

る風光明媚なイベントとなっている。また、日本の伝統芸能を気軽に楽しめる催しとして、区内外から多くの外国人が訪れることから、ベサニーさんが司会の逐次通訳も行っている。

イベントの台本が本番直前まで仕上がらない中、「外国人にも大田区の地域文化の良さを感じてもらいたい」と、ここでも事前準備に妥協は許さなかった。初めて来場した外国人が司会の説明を聞いて理解できるかという視点で厳しく台本を確認し、ただ訳すだけでは意味が通じないものは、適宜補足説明を加えるなど工夫を施した。イベント当日は着物を着て司会の横に立つため、テレビカメラと多くの来場者の視線を集め緊張感を伴う中、司会との呼吸の合わせ方も素晴らしく、見事に大役を果たしてくれた。



司会の通訳を行う様子

今後の活躍に期待

文書の翻訳やイベントでの通訳は、時にタイトなスケジュールでの成果が求められることもある。スピード感が求められる状況でも、妥協を許さず、常に質の高い仕事を目指すベサニーさんの姿勢に、周囲からの評価も高い。外国人のニーズの多様化や、地域住民の多文化共生意識の醸成に伴い、高い語学力と異文化理解能力を備えたCIRが当区で活躍するフィールドは今後さらに広がっていくものと思われる。「翻訳や通訳のスキルを上げてもっと多文化共生に貢献していきたい」と語るベサニーさん。大田区が目指す国際都市の実現に向けて、彼女に対する周囲からの期待は増している。

フランス・バルビゾン村との交流事業

朝来市は、兵庫県のほぼ中央に位置する人口約3万人の市である。アメリカ・ニューバーグ市、カナダ・パース町と姉妹都市提携を結んでおり、長年、中学生の海外派遣、海外中学生受入れ事業や市民派遣事業等を行ってきた。

また、2008年には、フランス・バルビゾン村と友好交流に関する覚書（芸術文化）を締結し、交流が続けてきたが、その交流内容としては、首長同士の相互訪問、バルビゾン村の芸術家の招へい等に止まっており、一般市民を巻き込んだ交流ができていないことが、課題となっていた。こういった課題を解決し、バルビゾン村とのさらなる交流促進を目的として、2013年に本市初となるフランス国籍の国際交流員（CIR）を採用し、2017年には2代目として、ルヌブ・レティシアさんを採用した。

レティシアさんの尽力により、2018年2月に両首長によるリモート会談が実現し、今後の交流のあり方についての協議が行われた。首長同士のリモート会談は、本市としては初めての試みであったが、現在も約半年に1度のペースで会談を続けている。

レティシアさんは、バルビゾン村との連絡調整やリモート会談での通訳だけでなく、会談内容の協議にも積極的に参加し、広い視野で物事を捉えた斬新なアイデアにより、両市村間の交流促進に大きく貢献しており、こ

うした取り組みによって、両市村間の連携が強化され、交流が深まった。

学生交換による交流

交流事業の特筆すべき1つとして、「学生交換事業」がある。この事業は、本市とバルビゾン村の学生を互いに派遣し、異文化理解の促進を目的としたものである。

第1回目は2019年4月、バルビゾン村から学生2人（高校生、大学生）を受け入れた。受入れ約2週間前にはホストファミリーとバルビゾン側参加者との間で、リモートによる対面を行い、好きな食べ物、日本で体験したいこと等について会話を弾ませた。こういった事前の対面はレティシアさんによるアイデアであり、実際に海外渡航を経験しているからこそ気づく視点で、両者の不安を軽減した。

バルビゾン村の学生受入れ期間中は、市長面談、書道や茶道などの日本文化体験、市内観光、市内高校への体験登校、ホストファミリーとの交流等を行った。こうした市民を巻き込んだ交流を行うことができたのは、バル



フランス・バルビゾン村長とのテレビ会談



フランス・バルビゾン村学生受入れ（市長面談）



フランス・バルビゾン村学生受入れ（市内観光）

ビゾン村との交流において大きな進歩であり、レティシアさんの力によるものが大きいと考えられる。

また、来年度以降は、本市からのバルビゾン村訪問も予定している。詳細はこれから決定していくが、実りある交流になることを期待したい。

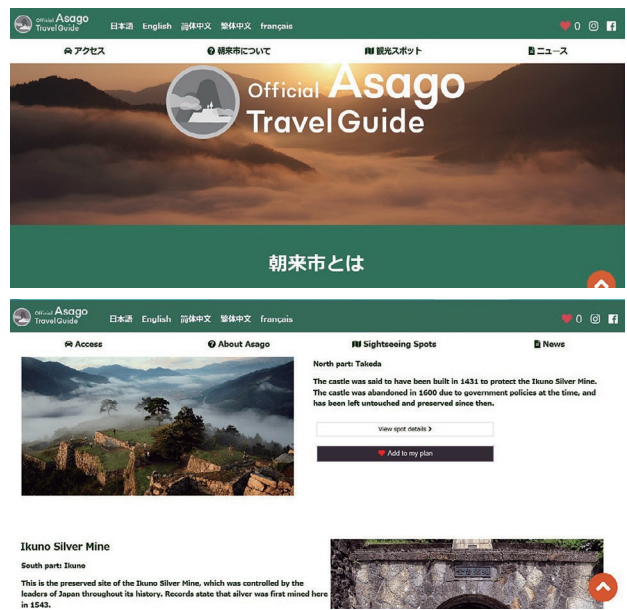
公式多言語サイトの作成

本市における外国人旅行者は毎年増加傾向にあるが、市の魅力や詳細な情報を分かりやすく海外に発信する有効な手段は持っていなかった。そこで、本市を訪れる外国人旅行者数の更なる増加を目的として、外国人旅行者向けの公式多言語サイトを制作することに決めた。

サイトの制作にあたり、外国人目線の意見を取り入れるため、CIRのレティシアさんがサイト制作のメンバーに加わった。具体的には、多言語サイト制作業務の委託事業者の審査や選定に始まり、委託事業者の決定後はサイトの修正点や改善点についての業者との打ち合わせ、外国語表記の確認作業等、担当課である観光交流課と連携しながら、本格的に業務に加わった。レティシアさんの豊富な知識やユニークな発想が取り入れられた公式サイトは2018年に開設し、多くの外国人に利用される人気サイトとなった。

さまざまな国際交流活動

前述したような活動内容に加え、レティシアさんは、市民を対象とした「フランス語文化講座」、「親子フラン

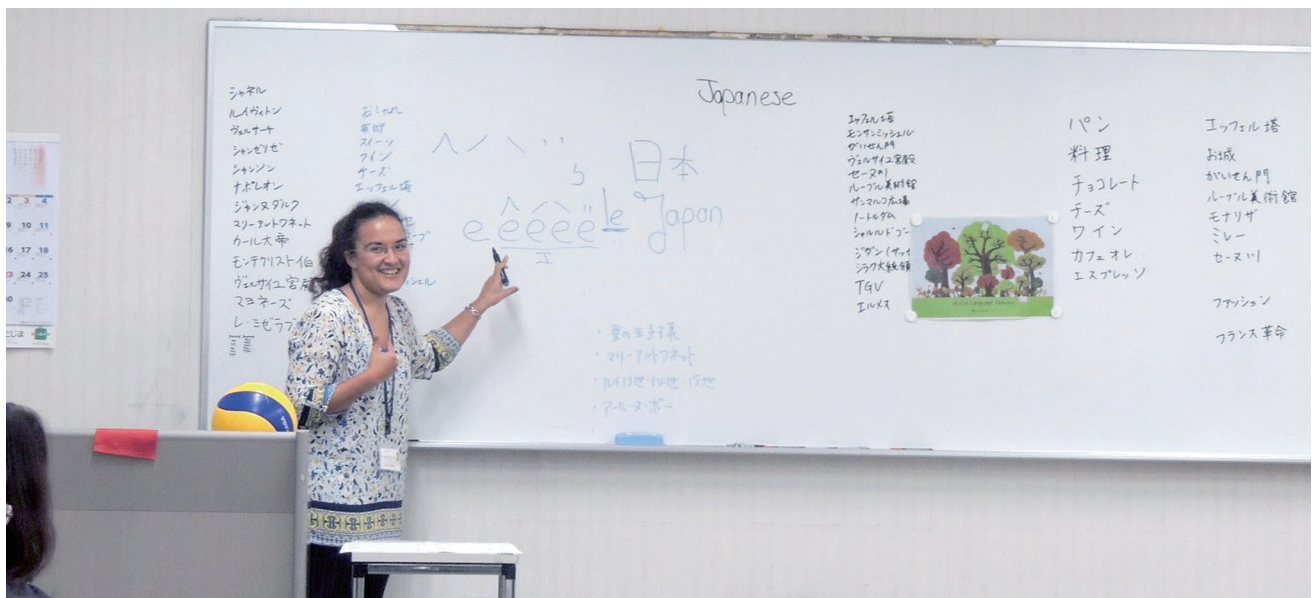


朝来市多言語サイト「Official Asago Travel Guide」

ス家庭料理教室」の講師として活躍している。これらの講座は、内容から全てレティシアさん自身が考えており、さまざまな工夫を凝らし、フランスの文化を伝えている。受講者からも、楽しくフランスの文化が学べるとして、人気が高い。

また、4か国語を話すことのできる彼女には、市役所内で翻訳・通訳業務の依頼が舞い込むことが多い。こうした業務にも積極的に取り組み、活躍している。

国際交流、多文化共生の進展に伴い、CIRの果たす役割は今後益々重要なものになってくると考えられる。多彩なCIRの活躍に今後も期待したい。



フランス語文化講座

企業から生み出された国際交流事業

多気町は、人口約1万4,500人の小さな町ではあるが、国際交流事業に熱心に取り組んでいる。1993年度にシャープ株式会社の協力を得て、「国際交流基金」が設立され、これを基に国際交流に関する事業を行っている。1995年にシャープ株式会社海外事業本部を通じてアメリカ合衆国ワシントン州キャマス市と姉妹都市提携を結び、交流が始まった。また、台湾台北市にある金華国民中学校とも2014年3月に友好提携を結んだ。提携以来、キャマス市、台北市ともに中学生代表団の派遣や受入れを通じて毎年交流事業を行っている。さらに、2017年1月にスペインのサン・セバスティアン市と「美食を通じた友好の証」を締結し、食文化や教育、経済などの分野で交流を深めることを期待している。

キャマス市との提携を契機に1998年度にJETプログラムにおいて、英語圏国際交流員（CIR）を任用し始めた。現在、当町の8代目CIRとして、米国出身のユアン・ケビンさんが2018年8月から活躍しており、姉妹都市交流事業をはじめ広く町民へ国際交流活動や異文化理解教育を推進している。



姉妹都市のキャマス市での歓迎会（右端がCIR）

町民向けの国際交流事業

町民への国際交流の推進としては、町内外の住民を対象にした交流イベント、クリスマスパーティーや県外の



小学生向けのハロウィンイベントを開催
（中央がCIR、両側がALT）

観光地を訪れるバスツアーなどの恒例行事、外国人向けの日本語教室、大人向けの英会話教室、料理教室、海外のボードゲームなどを行い、海外の文化や英語そのものを学ぶ機会を町民に提供し、好評を得ている。こういったイベントでは、CIRが計画や司会進行などを行っている。

また、CIRは町内の子どもたちへの教育でも欠かせない存在となっている。当町で開催される生涯学習フェスティバル（毎年10月開催）で小学生向けのハロウィンイベントを実施し、海外のハロウィンの習慣やゲームを楽しく紹介してもらっている。また、町内の5つの保育園を毎月訪問し、英単語・海外のゲーム・歌などを通し



保育園でアメリカの冬の様子を紹介しているCIR

て、楽しい雰囲気の中で、異文化に触れる機会を作っている。

彼の存在や取り組みが、海外を身近に感じさせ、異文化理解や国際交流を進めるうえで、貢献度は高いと考えている。

英語読書の促進に貢献

英語で書かれた本は、当町の図書館には児童文学以外ほとんどなく、図書館利用者から、英語で書かれた本を読みたいと問い合わせがあった。

そこで町民の声に少しでも応えるため、昨年、当町の CIR と 2 人の外国語指導助手 (ALT) は、町内の英語で書かれた本を増やすプロジェクトを計画した。米国 JET プログラム同窓会 (USJETAA) と在日米国大使館の少額助成金プログラムに申請して助成金を受け、子どもから大人まで幅広く楽しんでいただけるような英語の本を 65 冊購入し当町の図書館に寄贈した。その本の存在をより多くの町民に知らせるために、当町行政チャンネルの英語番組「Hello 英 GO!!」や町の広報誌でその本を紹介するとともに、町内各小中学校にチラシを配布した。

また、プロジェクトの一環として、昨年 5 月に「Taki Book Fair: "Oh, The Places You'll Go!"」という英語読書促進イベントを開催した。町内外から子どもを中心におよそ 60 人の参加者が集まり、図書館の一室を本の世界のように飾り、本に登場するキャラクターのスタンドも作った。また、ボランティアとして募集した近隣市町の ALT が、本のジャンルをテーマにした 6 つのテーブルを担当し、各テーブルで、イベント参加者にさまざまな本を基にした遊びや工作をしてもらった。例えば、



ブックイベントでのテーブル



本を読み聞かせている ALT

アメリカン・コミックスに出てくるようなマスクを作る遊びや、アメリカの人気絵本をテーマにした磁石を使った魚釣りなどのゲームを用意した。すべてのテーブルを訪れた参加者にしおりをプレゼントするスタンプラリーも実施した。さらに、寄贈された本を自由に読めるコーナーを設置して、30 分ごとに CIR が絵本の読み聞かせをするなど、参加者に英語に触れてもらう良いイベントとなった。また、イベント終了後、寄贈された本を特設コーナーに展示したことで、図書館利用者からは好評を得ており、これらの取り組みが、英語読書を促進するうえで、良いきっかけのひとつとなったと考えている。

さらなる活躍へ期待

当町は 2020 年秋開業予定の商業リゾート施設の発展に向けてインバウンド対策を進めており、今後観光振興事業の充実を図っていく。そこで、日本文化について高い知識を持つ CIR の視点から当町の魅力を引き出してもらい、観光戦略の構築、および海外の方々への発信などに積極的に取り組むことで新たな活躍の場が広がることを期待している。



多気町国際交流協会主催クリスマスパーティーで司会進行 (右端が CIR)

人口 3,200 人の町で活躍する ALT

川本町は、島根県のほぼ中心に位置する人口 3,200 人余りの町である。本町は、平成の大合併を経験しておらず、島根県内では離島を除いて最も小さい町である。

町の中には小中学校が 1 校ずつあり、JET プログラムを活用してそれぞれの学校に専属の外国語指導助手 (ALT) を 1 人ずつ招致している。

本町 ALT の特徴は、「学校の枠を超え、町内のさまざまなフィールドで活動している」ことである。小中学校授業のサポートに加え、英会話教室、町開催の祭りへの出展、クリスマスイベントなど、幅広い活動を行っている。このことにより、学校の外国語教育の充実のみならず、地域全体の英語力向上や、国際交流の推進に貢献していただき、本町の国際的なまちづくり推進に欠かせない存在となっている。

この記事では、現在活動している 2 人の ALT、小学校の Flores Giovanni Andres 先生 (ジオ先生) と、中学校の Etienne Venter 先生 (エティ先生) の大活躍の様子を紹介させていただく。



左からジオ先生、エティ先生

幼少期から英語に親しむ場づくり

川本町では、毎月 1 回未就学児向けの英会話教室「英会話教室 For Kids」が開催されており、ALT は講師として参加している。

この教室では、ALT がさまざまなアイデアを駆使し、子どもたちが楽しく遊びながら英語を学べる環境を提供



体を動かしながら、楽しく英語のお勉強 (英会話教室 for Kids)

している。これまでに、海外の絵本読み聞かせ・歌とダンス・ゲームなどが行われた。

また、12 月にはクリスマスバージョンの英会話教室を行っている。クリスマスカードづくりやクッキーづくりなど、ALT と住民 (教室関係者) が季節限定の特別なイベントを企画し、子どもたちは心から楽しみながら英語を学んでいる。

その他、ALT は町内にある 3 つの保育所への訪問を行っている。保育所では英語の絵本読み聞かせ・歌とダンス・手遊びやゲームなどを通じて、子どもたちが楽しく英語に触れる機会を提供している。

子どもたちは ALT が来ることを心待ちにしており、ALT が保育所に現れると、先生の名前を叫びながらみんな一斉に駆け寄ってくる。

このような ALT たちの活躍により、町の子どもたちが幼少期から英語に親しむ環境づくりが進んでいる。

地域で広げる国際交流の輪

「英会話教室 For Kids」の他に、川本町では毎週 1 回開催の大人向け英会話教室も実施されており、この教室にも ALT は講師として参加している。子どもだけでなく、住民全体の英語力向上や、国際交流の推進のための活動を積極的に行っている。

地域全体の国際交流の輪を広げる活動として、毎年秋に開催される産業祭での国際ブース出展が挙げられる。



ジオ先生とエティ先生を囲む園児たち（保育所）

この産業祭では、川本町の国際交流協会が毎年出展を
行っており、ALTも参加している。ブースの内容を決め
る企画会議から参加し、住民が海外の文化に触れる機会
を提供するため、また気軽に楽しく国際交流するために、
外国人ならではのアイデアを出している。これまでに、
海外の料理販売（アメリカ、韓国、ベトナムほか）、海
外のゲーム体験コーナー、ALTの出身国の写真展示など
が実施された。普段は食べることのない海外の料理、ま
た触れる機会の少ない海外の文化、そしてALTとの交
流を楽しみに100人を超える人々が訪れ、ブースは毎

年大人気である。

国際的なまちづくり推進を 先導する存在

ここまで、さまざまなフィールドで活躍するALTの
姿を紹介させていただいた。この他にも、小学生の放課
後居場所事業での交流、英語版・川本町観光パンフレッ
トの作成、小中学生を対象としたイングリッシュキャン
プなど、誌面では紹介しきれないさまざまな活動を行っ
ている。

川本町にとって、ALTはただ英語の授業をサポートす
るだけの存在ではなく、グローバル化する社会の中で必
要な外国語教育の充実、人材育成、国際理解の促進など
を町の先頭に立って実践する「国際的なまちづくり推進
を先導する存在」で
ある。今後もALT
の「学校を飛び出し
た大活躍」に期待し、
教育委員会とALT
で協力して国際的な
まちづくりに取り組
んでいきたい。



フィリピンで人気の料理「チチャロン」づくりに励むALT



大活躍のジオ先生とエティ先生

バラがつないだ絆・山形県村山市

村山市は、環境省「かおり風景100選」認定の東沢バラ公園を中心に、「バラ」を市の花として位置付けているバラの街である。そのことから、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に係るホストタウン事業として、本市と同じようにバラの国と呼ばれるブルガリアと交流を行っている。市立楯岡中学校新体操部が全国大会出場レベルであることから、ブルガリアの国技「新体操」の事前キャンプおよび交流の誘致を行った。2017年6月に行われた第1回目の事前キャンプ「ROSE CAMP」では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会事前キャンプとして日本初の取り組みであったため、全国から注目を集めた。

本市のホストタウン事業は、行政のみに留まらない「街を挙げたホストタウン」が特徴である。「ROSE CAMP」は、市民ボランティアのサポートにより運営しており、各地域のおもてなし交流、全小中学生交流、公開演技会、ファンクラブの結成など広く交流を行っている。



東沢バラ公園

むらやま新体操教室

本市のホストタウン事業は、選手との交流だけでなく、いち早くレガシーづくりにも取り組んだ。その1つとして、新体操クラブチーム「むらやま新体操教室」の立ち上げを行い、幼児や小学生から新体操を経験できる環境を整備することにより、未来のオリンピックの育成に向けた取り組みを開始することとした。

そこで、子どもたちへのより良い指導を行うためにスポーツ国際交流員（SEA）として任用したのが、アントアネタ・ヴィターレさんだ。彼女は、ブルガリア新体操ナショナルチームの元メンバーで、引退後はコーチの経験もあり、「むらやま新体操教室」の生徒や中学校新体操部の指導だけでなく、新体操の魅力発信に大きく貢献している。また、新体操技術の向上はもちろん、新体操の魅力や練習の楽しさ、達成感、情熱など、新体操を通して子どもたちの真の成長を引き出すために日々奮闘している。



公開演技会 2019



むらやま新体操教室を指導するアントアネタ・ヴィターレさん

保育交流

新体操は、体の柔軟性や瞬発力など運動能力を高められ、特に成長期に重要なコーディネーション（運動神経、運動感覚）を鍛えることに大きく期待ができる。

そこで彼女は、新体操のノウハウを生かし、遊びの中で楽しくできる幼児向けトレーニングメニューを考案し、市内保育施設を対象に、国際交流も交えたトレーニング交流「保育交流」を開始した。これは、「新体操の魅力を知ってほしい・運動を楽しく・良い成長を・楽しい国際交流を」という彼女のたくさんの想いから誕生した企画だ。子どもたちは、彼女の上手な教え方だけでなく、その人柄に魅力を感じ笑顔の絶えない交流を行っている。



保育交流

健康づくりストレッチ

日本でよく行われるストレッチは、新体操の基礎トレーニングともなっており、全身の筋肉を無理なくほぐすだけでなく、実施方法や負荷のかけ方でトレーニングにもなる。

村山市は高齢化が進み、人口の約39%が高齢者（65歳以上）の超高齢社会であるため、街を元気にするためには、高齢者に元気になってもらう必要があると考えた彼女は、高齢者を含めた全世代が楽しくできる「健康づくりストレッチ」を考案した。

「健康づくりストレッチ」は、イスを使って体に負担をかけずに全身の筋肉を無理なく動かす初級編や、反対に負荷をかけて筋力トレーニングにもなる中級編、そして、新体操の振り付けの要素を入れた有酸素運動のリズミカルな上級編がある。いずれも、バランスよく全身の筋肉を動かすことができる。



健康づくりストレッチ

ブルガリア料理教室

ブルガリアと村山市の相互理解や交流を推進するために、また、彼女自身が来日したことをきっかけに日本料理が好きになったことで芽生えた「日本人にもブルガリア料理を好きになってもらいたい」という想いから「ブルガリア料理教室」を企画した。

彼女は新体操コーチである一方で、家族を持った主婦でもあるため、今度は主婦の経験を活かして、世界共通の「料理」で文化交流を行った。手軽に挑戦してもらうための工夫として、日本の一般的なスーパーマーケットで手に入る食材で、ブルガリアの味を再現できるメニューを提案した。

彼女の取り組みは、常に市民のためにあり、常に市民のニーズを探している。これからも市民に寄り添う心の交流が広がっていくことを期待している。



ブルガリア料理教室